

高次脳機能障がいの方への就労支援

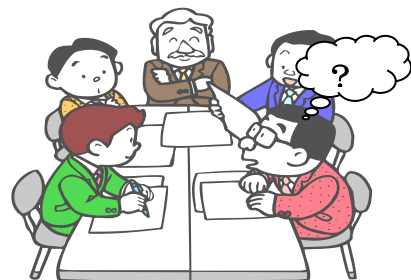
～失語症を伴う方への復職支援事例～

失語症は、『大脳の言語中枢が何らかの損傷を受けることにより、言語能力「書く、読む、話す、聞く」ことに障がいが残った状態』を言います。失語症の方でも、言語を介さない状況判断力や記憶力などの高次脳機能は比較的保たれている場合がありますが、その他の高次脳機能障がいを合併していたり、また、日常生活には支障のないレベルでもコミュニケーション能力が要求される職業生活となると影響が出てきたりする場合もあるでしょう。高次脳機能障がいを伴う失語症の方の就労支援を行う上で大切と思われるポイントについてご紹介したいと思います。

- ① 受傷(発症)前と同じ職業レベルを維持することは難しい場合が多く、当事者の症状や状態に即した職務配置や職務創出がポイントとなります。そのためには、自身の障害理解が、できている、現実に即した職業生活が検討できることが必要と思われます。
- ② そのためには、支援機関の役割が重要となります。特に医療機関からの情報提供により企業側の理解や連携を高めることが大切となります。
- ③ また、実際の職務の遂行に関しては、コミュニケーション面が課題となるため、ジョブコーチによる支援もしくは職場でのキーパーソンとなる方の存在(職務内容の取りまとめや指示出しなど)があると効果的であると考えます。

Aさん(脳梗塞による感覚性失語症で、注意や判断力の低下が認められる)の事例

復職支援のプログラムとして『職場内リハビリテーション』を実施。事前に主治医から障がい状況の説明をはじめ、職務の検討などを重ねました。職務内容に関しては、定型業務であり、手順を視覚化しやすいという理由で、オフィスビル内に設置されているタオルの交換業務を担当。これはグループ会社で行っている業務を切り出したものです。タオル交換業務に関しては、慣れるにつれて作業量のアップが図られ、良好な評価でしたが、課題として指摘されたのは、コミュニケーション面と状況判断という点でした。特にイレギュラーな場面での意思疎通のはかり方や作業の切り替えで速やかに次の行動に移れないとの指摘を受けました。また、わかっていなくても「大丈夫」と言ってしまう状況がさらに混乱を招いていました。筆談(単語もしくは簡潔な短文)のためのノートや作業予定・遂行表の導入、報告の徹底、業務の指示出しをする職場担当者を決めるなどの対応で、改善された面もあり、就労継続されています。事前の準備、職務創出なども重要ですが、具体的な対応に慣れていない企業の方にとっては、現場で実際に対応する場面を見ていただくことやジョブコーチ支援の導入が、安心感・理解を生むために有効ではと感じています。(今野 政美)



職能科の訓練 ⑥ ～就労・復職への個別訓練～

職能科では高次能機能障がいがある方への訓練として個別と集団訓練、そして職場内リハビリテーションを実施しています。個別訓練の目的は利用者が、①作業ができることを確認して自信を回復する、②苦手なところを知り、高次能機能障がいの影響を知るという2点が主な目的です。課題は主にワークサンプル幕張版を活用しています。その中でも物品請求書作成(写真1)、作業日報集計の事務課題は注意障害の影響を確認しやすい課題と言えます。多くの情報を整理して作業を進めなければならず、ミスとして記入漏れ、検索の間違い、集計箇所の見逃しなどが現れます。また、作業遂行の所要時間は情報処理速度として計測することが可能です。



写真1 物品請求書作成

訓練時間は利用者の個別訓練プログラムによって40分から、就職・復職間近の方ですと3時間20分程の訓練を受けている方もいます。入院患者の方はほとんどの方が個別訓練ですが、外来の方は午前中個別訓練と午後は集団訓練を受けている方が多くいます。担当者は個別訓練結果を面談を通して利用者にフィードバックしながら、個別の所期目標が達成されるように支援を進めます。(泉 忠彦)

平成23年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2011年9月、10月の人数	10名
2011年4月からの累計人数	16名

就職・復職者の人数		
2011年9月、10月の就職・復職者	新規就労	1名
	復職	4名
2011年4月からの累計	新規就労	5名
	復職	18名

農芸作業

私たち職能科で行う農芸作業は、大山を一望できる自然の中で、季節の変化を身近に感じながら畑仕事を行っています(写真2)。対象者は七沢学園就労移行支援事業の利用者です。

農場では、そら豆、枝豆、じゃがいも、椎茸、ブロッコリー、大根、柚子など季節の野菜栽培をされていて、作物の様子を見ては一喜一憂しながら、畑の仕事以外に草取りや剪定、落ち葉かき、ブロック運搬など様々な作業を行いながら育てています。季節によっては鹿や猪が夜中に農場を荒らすこともあるので、ネットを張ったりブロックを積んだり…。対策に追われることもあります！

作業はというと、農芸作業導入で、鎌や一輪車などの道具の使用状況や役割分担した作業の取り組み状況を観察し、できる所から徐々にステップアップする形で取り組んで頂いています。野菜の栽培から収穫まで、様々な動作が必要な農芸作業では、集団で作業をする上での協調性や、役割分担で行う作業、粗大作業の適性や体力など様々な課題点が見えてきます。こうした課題点を整理して、利用者に結果をフィードバックして、目標を立てて訓練を積み、ステップアップできるように支援をしています。(山本 和夫)



写真2 農芸作業